

インターネットを活用した英語リスニング・リーディング教材の開発

立命館大学理工学部 荒瀬美佐子

キーワード：英語リスニング教材、英語リーディング教材、インターネット、CNN

1. はじめに

本発表は、インターネットを活用した英語リスニング教材の開発、および、それに関連した題材を読ませ学習の相乗効果を図ることを意図したリーディング教材の開発について、その手法と過程を、実際の教材を提示しながら、報告するものである。¹ 今回作成したものは、理工系大学生を対象としたもので、リスニング、リーディングともに、科学的な内容（ただし、一般教養の範囲内）の報道英語を素材としたが、文系学生用にも同じ手法で教材を提供できる。

2. リスニング教材の開発

リスニングには、学習者用に加工されたものではない、すなわち、発話スピードを故意に落としたり、単語一つ一つが不自然なまでに明瞭に発音されたりしたものではない、自然な速さのテレビニュースの英語を素材とすることとした。特に、これまで日本人英語学習者が苦手としていた、短縮や脱落、弱化、消失、連結、同化といった音変化の現象に慣れること、英語独特のリズムを身につけること、ニュース英語の言い回しに慣れること、そして、聞き取れない部分が多少あっても、話の流れをつかみ、要点を押さえることができるよう、情報の取舍選択能力を高めることを主な目標/課題とした。

教材探しには、アメリカ、そして、世界中の中高生（英語が母語でない場合は、大学生も対象）に CNN² NEWSROOM および CNN NEWSROOM Worldview を通して時事に適った事柄を学習させることを主に意図とした。教師用の WWW のサイト CNN NEWSROOM & WORLDVIEW—Daily Classroom Guide (<http://learning.turner.com/newsroom/>) を使用した。³ 発表では、具体的にこのサイトをどのように利用し、どのような視点/目的で、どのような課題をつけ、どのような教材を作ったかを、実際の教材と授業展開方法の詳細をまじえて、報告する。

3. リーディング教材の開発

リスニングとの学習の相乗効果を期待して、関連記事を読ませることとした。このことにより、マルチメディア時代の学生にとって、とかく無味乾燥なものになりがちなリーディングの教材に、映像と音声による動機付けを図ることもできる。リーディング教材は、上記 CNN NEWSROOM & WORLDVIEW—Daily Classroom Guide を最初の手がかりに、著作権の問題も考慮しつつ、インターネット上で幅広く探した。選定に当たっては、リスニングとの関連性、そして、そこからの発展性だけでなく、科学者・技術者としての素養を身につけさせるために、科学技術の進歩にまつわる功罪について考える機会を与えることも視野に入れた。

¹Developing Teaching Materials for Listening and Reading Courses Using the Internet
Misako Arase, Faculty of Sciences & Engineering, Ritsumeikan University

課題としては、まず、知らない単語や表現があっても、必要な情報を探し出すことが日本語に頼ることなく効率よく出来るよう、速読速解力と情報収集能力を高めることを目的に、走り読み (skimming) と拾い読み (scanning) の訓練をさせる。また、大意把握、要点把握の訓練を行い、読むことを通して、英語のパラグラフ/文章構成法の習得ができるよう、そして論理的に文章を構成する能力が養えるよう計らった。発表では教材と授業展開方法の具体例を示す。

4. おわりに

自主編成教材の一番の利点として、語学のみならず、学部カリキュラムの全体像、そして、育てたい学生の理想像をにらんで、教材を提供できることが挙げられる。たとえ語学の教室であっても、語学の学習のみに焦点を当てた教育を提供するだけでは事足りないし、それでは学生も真には満足しないであろう。また、学生の理解度、到達度、そして、興味に合わせて臨機応変に教材の一部を差し替えることができることも、自主編成教材の利点の一つとして特筆に値する。とかく時代の流れが早くなったと言われる昨今、旬の教材を提供することは学習の動機づけに大きな効果を発揮する。

インターネットには実に様々な種類の生きた英語があふれ、様々な方法で英語教育に活用できる。本発表で紹介するように、教材開発にも利用できるし、学生自身が直接インターネットにアクセスし英語力を高めるよう導くことも可能であるし、また、教師が作成したサイトで学生にオンライン CAI として学習させることも可能である。インターネットを活用した教材開発、語学教育/学習は、未知の可能性を秘めている。

¹ 立命館大学理工学部にて 2000 年度導入予定の新カリキュラムでは、必修英語全 10 科目が、系統的な学習と、学習の相乗効果を期待して、それぞれ互いに縦に (回生を越えて) 横に (セメスター内で) つながった形で授業展開される。本発表で紹介するリスニング・リーディング教材もそうした「つながった」科目において用いられる教材である。

² CNN = Cable News Network : 米国のスーパー・ステーションの WTBS (ターナー放送) が 1980 年に開局したニュース専門局

³ 年次登録した教育機関では、無料で番組を教室に持ち込むことができる。